

第 19 号

発行：平成 24 年 10 月
松浦武四郎記念館友の会
会員数：112 名

(平成 24 年 10 月 14 日現在)

(家族会員=8 名、個人会員=104 名)

松浦武四郎記念館友の会



友の会だより

友の会事務局：松阪市小野江町 383

松浦武四郎記念館内

連絡先：電話 0598-56-6847

Fax 0598-56-7328

発行責任者：飯田 秀

「旅」

友の会 役員 柴澤 十



私をはじめ、松浦武四郎を知ったのは定年退職後で、柄にもなく妻への感謝と慰労のつもりの北海道への旅の時でした。バスで一泊目の定山溪に向かう途中ガイドさんが「伊勢の探検家、松浦武四郎さんが江戸時代の後期に蝦夷地を探検し、のちの北海道開拓に寄与されました」との説明でした。

私と家内は何か得意な気分になったのを記憶しています。

私が武四郎に興味を持ったのは「武四郎まつり」を見物に行った時、館内を丁寧に説明して下さいました。その方が高瀬名誉館長だったことが後で知りました。その後、学芸員山本命氏の講座に第一回より参加し、武四郎の人的魅力にひかれて、友の会の立ち上げ時より未熟ながら役員をさせて貰っています。

北海道では武四郎のことは大勢の人たちが知っています。地元伊勢ではまだまだだと思います。私たち友の会も武四郎さんの業績を多くの人たちに知っていただくよう努力すべきかと思っています。

武四郎の原点は「旅」でした。子どものころに参宮街道を歩き交う旅人を見てやがてそれが全国へと胸をとときめかし巨大な文献を後世に伝えました。芭蕉も又旅で「奥の細道」を書き上げました。「不易流行」の言葉がありますが、時代の流れに「旅」の姿は変わり行き交う人も変わりましたが、旅の本質は不変だと思います。

人的魅力のある武四郎研究を続けると共に、「友の会」発展のために微力ながら努力する覚悟です。

松浦武四郎シンポジウム第2弾 開催！！

9月16日に「史跡松浦武四郎誕生地の活用に向けた意見交換会」が、誕生地と真覚寺を見学した後、小野江小学校体育館において開催され、約180名が参加されました。

最初に講師の方から誕生地の建物についての調査結果や歴史的価値について説明があり、その後、誕生地・真覚寺の説明が行われ、休憩の後に山中市長や講師の方及び会場の参加者との意見交換会が行われました。会場では、市長や講師始め、保存会、読む会、友の会、一般市民の方などから積極的な意見が出されました。又、小野江小学校の5・6年生からも具体的な提案がありました。



※ 主な意見は4頁に記載しています。



休憩時間中に、参加者に北海道勇払郡厚真町のあつま食品様から『武四郎もち』がふるまわれ美味しくいただきました。

「北海道へ武四郎の足跡を訪ねて」参加報告

生誕 200 年への会が道央を巡る旅を企画し 39 名の方が参加されました。札幌、帯広、富良野、旭岳の武四郎に深い関わりのあるところを巡り、現地の方々とも交流するなど有意義な旅となり、宿泊も北海道ホテル始め満足の行く内容でした。

参加された米本さんに感想などの報告をして頂きます。



米本さん(左)と飯田会長

「北海道へ松浦武四郎の足跡を訪ねる旅」 そして アイヌの人たちとの交流に参加して

米本 一美(友の会 会員)

武四郎生誕二百年を6年後にひかえた記念行事が企画され、梅雨の無い「道央」への旅に家内と共に参加させていただきました。

今回は6月26日からの3泊4日でしたが、高瀬英雄名誉館長の「至れり尽くせり」準備万端のスケジュールにより、松阪と津から高速船にはじまり中部国際空港から千歳へ空の旅で到着すると初日から札幌市内にある北海道開拓記念館や札幌農学校など歓迎を受け続けて施設へと、三好孝団長以下39名が訪れて北海道の歴史に耳を傾け、夜には定山溪のホテルに着いたが、当地の温泉には武四郎が命名の「定山」と言う名の僧より先に入浴した逸話を聞いて宿泊したが、食後の懇談会には多数がアイヌのご夫婦を囲んでの交流が始まった。



札幌ピリカコタンのチセの前で集合写真

翌朝には近くの「札幌ピリカコタン」でチセの内外で歓迎を受け、資料館ではアイヌの貸衣装で記念写真も、そして別れの握手など記憶に尤も残る最高の場所だった。

次は武四郎の歌碑が建つ音更町鈴蘭公園を訪れて武四郎の想いを聞き、十勝毎日新聞社では歓迎のあと難問をうけ、今までの学習が不足であったか思い知らされたのでした。それは社長が入手された武四郎の筆なる掛け軸の内容でした。絵画と署名・捺印までは限度で歌の文字は解読できず、文字数から漢詩までのメドで山本命学芸員に助けて戴きました。

二日目の宿は憧れの北海道ホテルでの夕食を、また早朝の散歩は帯広駅まで出向いたが余りの静かさと広さに感動のヒト駒でした。当日は南富良野と上富良野で大歓迎を受け、木田幸次郎の碑で松阪出身者を確認できたが開拓の歴史には苦労と忍耐が偲ばれました。また「かみふらのフットパス」のウォークではメンバーの皆さんのご配慮でコースの設定と、武四郎の踏査記録からの十勝越えの遠望や「千峰峠」を紹介いただきました。夜の懇談会にもガイドのお二人が参加していただき盛大に交流を兼ねた催しが行われ白金温泉での夜を過ごしたのでした。早朝の自由散歩は、溪流に架かる橋からの景観は、温泉の「白滝」が青い川に流れおちるサマはマサに絶景でした。



旭岳をバックに

最終日のスケジュールは、バスで白樺街道を走りロープウェイの駅に到着し、目指すは大雪山・旭岳です。頂上駅へ降りると残雪があり、ウサギの歓迎で記念写真に収まりました。

四日間のバス移動も高速道路で千歳空港へ到着してお別れです、帰路の「空の旅」となり無事に中部空港、そして高速船へと予定通りの日程を終えて一同がお別れしたのでした。その後、今回の「旅の記録 DVD」を鑑賞することができ、昨日の様に甦りました。

今回の記念行事を振り返って、郷土の偉人松浦武四郎の足跡の大きさを痛感しました。アイヌの方々や行政の取り組み、そして企画していただいた高瀬さんに感謝感激です。

了

24年度年間事業計画の中で、県内において「武四郎の足跡を訪ねる旅」が7月に予定されており、山本学芸員から佐佐木信綱翁(1872～1963)は父(弘綱)に連れられて11歳の時に武四郎に会っていることをお聞きし、その記念館が鈴鹿市石薬師にあることを知り役員会に諮ったうえで、研修として佐佐木信綱記念館見学と顕彰会との交流懇談会を開催することに決定しました。

一か月半前に私と飯田会長の2名で下見に行き、役員会で話し合いの上、開催時期を7月11日(水)に決定し、6月の武四郎講座の後に参加された会員の方々に参加募集を呼び掛けたところ16名の申し込みがあり、13時30分から佐佐木信綱記念館の展示説明・生家の案内の後に佐佐木信綱顕彰会(市川琢也会長)の役員及び磯上学芸員との交流懇談会を開催して、お互いの活動内容や思いなど、意見交換が出来て有意義な研修になりました。

交流会の後は有志による「信綱かるた道」の一部を歌額を見ながら信綱翁が父(弘綱)と幼少時代に毎月参拝されたと云う大木神社まで散策をして帰宅の途に着いたのですが、学芸員の話やいただいた資料から、信綱翁は6歳の時に松阪に4年間移住した後は11歳で上京した時、父に連れられて武四郎と会った際に半紙に歌を書いたところ、「一生を歌にささげるつもりで勉強せぬといかぬ」などと言われたことも有って歌人をめざしたのではないかと思います。

約2時間半の研修でありましたが、武四郎生誕200年を数年後に控え、生家、真覚寺などの活用について考える良い機会となりました。



大木神社で記念撮影



交流会の様子

松阪市民活動情報紙「アロマ」で

友の会の活動が紹介されました！！

市民活動情報紙「AROMA」は偶数月に2500部を発行して、松阪市内の市民センターや公共施設だけでなく、県内の公共施設にも発送されて多くの方々に読まれています。

地域の市民活動情報はもとより、NPOにまつわる全国的な情報なども取り上げて発行しています。私たち友の会も平成21年11月登録団体に加入して、年一回の登録団体交流会に1～2名参加して「友の会」のPRや友の会だよりの印刷もさせて貰っています。

今回は「松浦武四郎記念館友の会」をより多くの方々に知っていただくと共に、武四郎についてや「武四郎まつり」の情報発信に繋がると思いNo.42(平成24年8月発行)に掲載していただきましたので、会員の皆さまにも是非読んで貰いたいと思います。



AROMANo.42の一面

【松浦武四郎記念館よりのお知らせ】

松浦武四郎記念館 展示のご案内

- ◆武四郎涅槃図の世界・・・・・・・・・・11月18日(日)まで
奇想天外なアイディアに満ちあふれた武四郎の涅槃図を是非ご覧ください。
- ◆武四郎と文人たち・・・・・・・・・・11月20日(火)～12月2日(日)まで
武四郎と交流のあった文人たちの書や絵画を展示します。
- ◆AINU ART-風のかたりべ・・・・・・・・・・12月4日(火)～1月20日(日)まで
アイヌ民族の現代作家の方々の刺繍や木彫りの作品を展示します。
※11月17日(土)、18日(日)は「関西文化の日」で無料で入館いただけます。

武四郎講座のご案内 (松浦武四郎記念館にて、参加無料)

11月11日(日)10時～11時、友の会が主催します。

テーマ：武四郎と交流のあった人びと、講師：福永昭(武四郎を読む会会長、友の会会員)

12月9日(日)、1月13日(日)(いずれも10時～11時)については、詳細は未定ですが、AINU ART 展に関連してアイヌ文化を紹介する講座を予定しています。

武四郎まつりのご案内

平成25年2月24日(日)午前10時から 松浦武四郎記念館にて
武四郎まつり実行委員会の主催で、アイヌ舞踊をはじめ
もりだくさんの内容で企画しています。



【松浦武四郎記念館友の会よりのお知らせ】

松浦武四郎シンポジウム第2弾での主な内容

＝史跡松浦武四郎誕生地の活用に向けた意見交換会＝

1 松浦武四郎誕生地を見学する前に

誕生地と武四郎の関わり・・・・・・・・記念館学芸員 山本命

誕生地の各建物・・・・・・・・伊藤平左工門建築事務所 名古屋事務所所長 野村俊也

誕生地の歴史的価値・・・・・・・・三重大学大学院工学研究科 建築学専攻 教授 菅原洋一

2 松浦武四郎誕生地の見学

2班に分れて飯田会長と、役員の中村益郎さんが誕生地迄の案内説明と真覚寺の説明を行いました。

3 活用に向けた意見交換会

山中市長、小玉道明さん(松浦武四郎誕生地整備検討委員会 委員長)、菅原教授を中心に会場の参加者と共に意見交換がなされました。

会場では、市長や講師始め、保存会、読む会、友の会、一般市民の方などから積極的な意見、小野江小学校の5・6年生からも武四郎グッズや武四郎に困んだお菓子の販売など、具体的な提案があり、熱のある有意義な会となり今後の活用への参考になったと思います。

一方、武四郎に関することのみを活用するのではなく、伊勢街道沿いとか松阪市内、三重県など全体を考えること、地元で美味しい食べ物を食べるのではなく地域にそうした店が出来、地域全体へ更に街道へとつなげてはと言う意見がでました。又、行政に頼るのではなく市民自からが自主的に参加し具体化してゆくのか、考えさせられるシンポジウムで、それぞれの団体の活躍が期待されます

お知らせ

市政バスを利用した市内施設の研修は、11月7日(水)に開催します。詳細は別紙。申込み締め切りは10月20日です。